

関東塗料工業組合

設立60年、再生と成長を



関東塗料工業組合(篠原幸治理事長は、13日午後5時から東京都台東区上野公園精養軒で、令和

8年賀詞交歓会を開催。

あいさつに立った篠原理事長は「写真」は、「私は関東塗料工業組合の心の中を掘り出したいと思っています。あらゆることがデジタル的になっていく今だからこそ、人間の営みによって生まれる信頼関係や友情、あるいは感動

や楽しさのようなものは絶対に必要だと思ふ。いくらAIが発展しても最後は人間の勝負だと思ふ。そこを重視していくべきだと思ふ。しかし、人間は機械ではない。仕事を真面目にやっていたら、不安を感じることもあるだろうし、

プレッシャーに押しつぶされるようなこともあるかもしれない。そんな時に必要になってくるのが心のよりどころだと思ふ。関東塗料工業組合がその役割を果たせると私は思っている。今年も、昨年に増していろいろなことが変化して難しい状況になるかと思ふが、人にフォーカスして、皆さんのお役に立てる組合を目指したい」と述べた。

乾杯の発生を同組合副理事長の戸次強氏が、歓談の閉会あいさつを、同じく副理事長の北林隆一氏がそれぞれ行った。

なお、同日午後3時45分から新春講演会が開催され、モダンボーイズCEOの竹中功氏(元吉本興業専務取締役)が「よい謝罪 その前に重要な危機管理を学ぶ」をテーマに講演。謝罪はゴールではなく、ゴールに向かうための道具の一つであることを説いた。